

## 魅力ある地域づくりに関する特別委員会 議事次第

（ 令和 8 年 7 月 8 日（水）  
午後 1 時 30 分 ～  
於：第 7 委員会室 ）

### 1 開 会

### 2 所管事項の調査

「京都府における移住促進の取組について」

### 3 閉会中の継続審査及び調査

### 4 今後の委員会運営

#### ○ 管外調査

日 程：令和 8 年 8 月 31 日（月）～ 9 月 1 日（火）

### 5 そ の 他

### 6 閉 会

# 魅力ある地域づくりに関する特別委員会 出席要求理事者名簿

(令和8年6月府議会定例会)

【総務部】	
総務部理事 (自治振興課長事務取扱)	山本茂樹

【総合政策環境部】	
総合政策環境部副部長 (子育て社会推進監付理事兼務)	白波瀬 衛
地域政策室長	吉田宏則
地域政策室企画参事 (北部担当)	大野義章
地域政策室企画参事 (中部担当)	仲村貴人
地域政策室企画参事 (南部担当)	池松達人
大学政策課長	巽大輔

【文化生活部】	
文化生活部副部長 (スポーツ・文教担当)	野村宗平
スポーツ振興課長	佐々木智也

【商工労働観光部】	
中小企業総合支援課長	田村弘之
雇用推進課長	安村真
観光室長	西田剛

【農林水産部】	
農林水産部理事 (経営支援・担い手育成課長事務取扱)	川原崎尚志
農村振興課参事	嶋渡英樹

【建設交通部】	
交通政策課長	原田聡

(計 15名)

# 京都府における移住促進の取組について

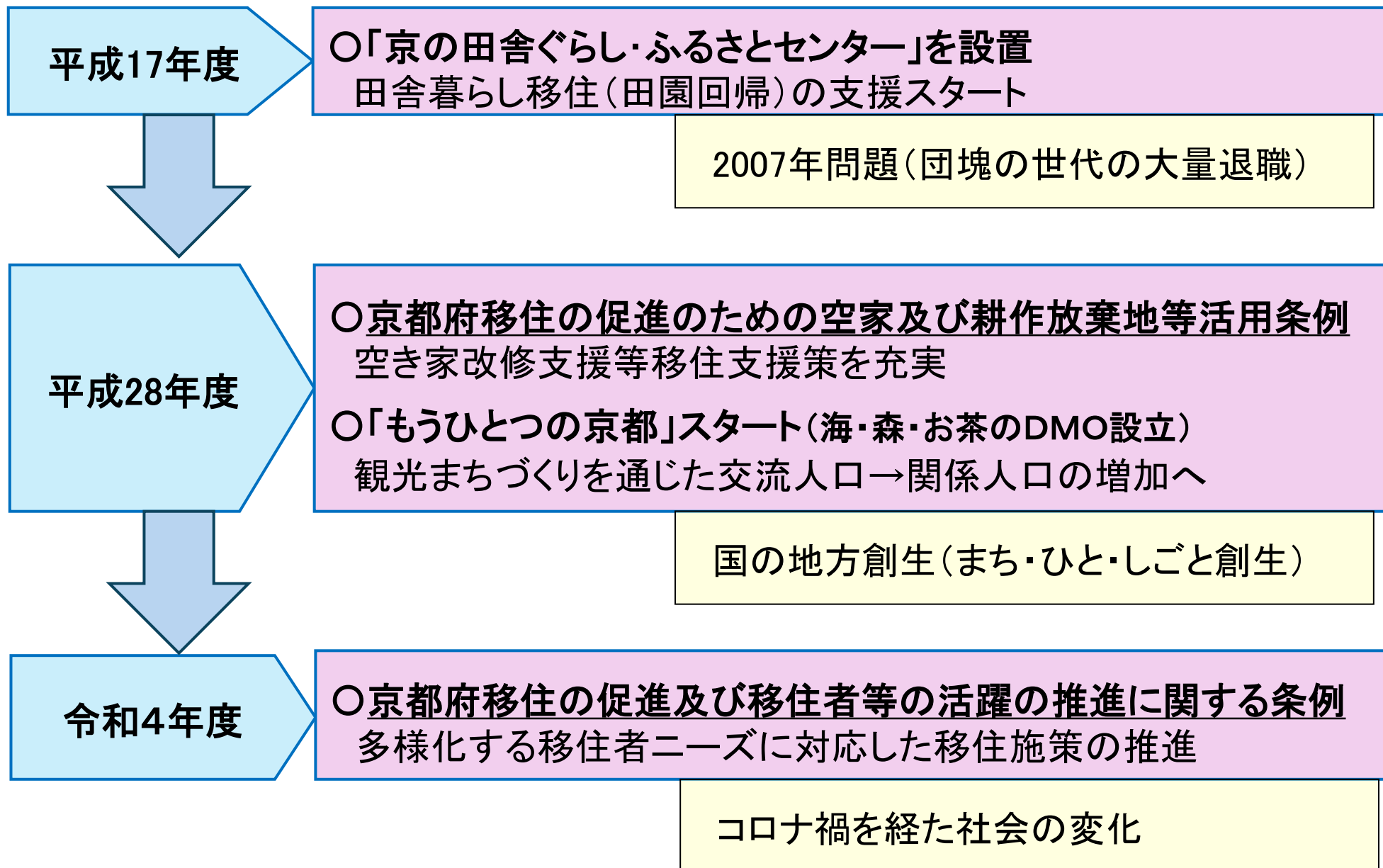


令和8年7月

魅力ある地域づくりに関する特別委員会



# 府移住関連施策の取組と経過





## 【旧条例の内容】

移住の促進のため、空家及び耕作放棄地等の活用並びに居住環境の保全に関し、移住に係る経済的負担の軽減、空家の適切な管理等に関し必要な事項を定める

## 【新条例の内容(R4~)】



<ねらい>

近年の移住ニーズや働き方の多様化を受けて、様々なニーズに対応した移住を促進するとともに、移住者や関係人口が地域社会の担い手として活躍できる地域づくりを推進することにより、更なる地域の活性化を図る。

### ○ 移住促進及び移住者等の活躍の推進に関する基本理念を明記

①多様化する移住ニーズへの対応

③地域の特性に応じた事業展開 等

②住民との交流促進や共に活躍できる環境の整備

### ○ 「移住促進特別区域」の指定可能エリアの制限を緩和

### ○ 「移住促進特別区域」への支援措置を拡充

⇒市町村が「移住者受入・活躍応援計画」を作成した場合の支援を新設

## 【特 徴】

- 移住促進関連で都道府県唯一の条例を改正し、「移住促進特別区域」の指定可能エリアを拡大。  
加えて、移住者のみならず、地域活性化の役割を担う関係人口も新たに支援対象として位置づけ
- 令和9年3月31日までの時限条例



# 移住促進特別区域の指定等

## 移住促進特別区域(右図の緑色地域)

＜指定済区域数 16市町村126地区＞

- ・丹後地域 37地区
- ・中丹地域 36地区
- ・南丹地域 38地区
- ・京都市・乙訓 6地区
- ・山城地域 9地区

## 応援計画策定地域(右図の太枠地域)

＜応援計画策定地域数 12市町14計画＞

- ・宮津市1計画、綾部市2計画(R4年度認定)
- ・南丹市1計画(R5年度認定)
- ・福知山市1計画、舞鶴市2計画、亀岡市・京丹後市・京丹波町・与謝野町1計画(R5年度認定)
- ・笠置町1計画、和東町1計画、伊根町1計画(R6年度認定)

## R7移住関係支援事業等の状況

＜空家バンクへの新規登録件数＞

R7:317件(内まちなか30件) R6:254件(内まちなか10件)

＜移住促進住宅整備事業＞

R7:101件(内まちなか7件) R6:100件(内まちなか0件)

＜空家流動化促進事業＞

R7:70件(内まちなか3件) R6:75件(内まちなか2件)

京丹後市：  
若者や女性など多様なプレイヤーによる地域活動活性化計画

与謝野町：  
道の駅「シルクのまちかや」  
を拠点とした地域づくり計画

福知山市：  
「いなか暮らし起業」を  
実現できるまちづくり

伊根町：  
関係人口事業を通じた地域活性化計画

宮津市：  
“まちなか”エリアを核とした  
「若者に選ばれる」まちづくり計画

舞鶴市：  
協働で持続可能な大浦を目指す移住  
促進プロジェクト

綾部市：  
移住者等との協働による「水源の里」  
ブランディング強化計画

舞鶴市：  
住民が輝く持続可能な地域の形成計画

綾部市：都市農村交流体験プログラムを  
通じた地域活性化(再生)計画

京丹波町：  
地域資源・魅力を活用した関係人口  
創出から繋げる移住促進計画

亀岡市：  
レジリエントで持続可能な地域づくり計画

笠置町：  
笠置町交流拠点施設である「笠置町サテライトワークスペース」、  
「笠置町移住・定住プラザ」、「笠置町お試し住宅交流スペース」  
を活用した地域づくり計画

R8.6.30時点

南丹市：  
農のある暮らしを継承する  
まちづくり計画

和東町：  
観光・産業振興の促進  
による関係人口増加を  
契機とした移住促進計画

※農村振興課と共管で実施



## I. 「移住するなら京都」推進事業

(共管：総合政策環境部・農林水産部・商工労働観光部)

移住者の住まいの確保支援

移住検討者に対する情報発信

移住定住へのフォローアップ

移住者の仕事の確保支援

## II. 各分野の施策も活用した移住促進の取組

きょうと地域連携交付金による支援

地域交通の維持・確保を通じた定住促進に関する支援施策

# I. 「移住するなら京都」推進事業

(共管：総合政策環境部・農林水産部・商工労働観光部)



※移住者の住まいの確保支援の内数

事業概要	移住者が空家を取得又は賃借等し、自ら居住する目的で行う生活をするために必要な改修を支援(上限1,800千円/戸(府1/2、市町村1/2))			
	R4	R5	R6	R7
実績額(千円)	64,912	81,621	87,621	88,946
実績(補助件数)	73	93	100	101
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移住・定住者(10年以上)の獲得につながっている</li> <li>● 補助実績は、年々上昇傾向</li> <li>● 地域の人口減少により空家が増加する一方で、魅力ある物件はすぐに成約するため、引き続き魅力ある物件の掘り起こしが必要</li> </ul>		<p><b>【補助スキーム】</b></p>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の宅建業者と連携した相談・支援体制を構築している市町村もある</li> <li>● 移住者に空家を譲渡するために必要な空家所有者による家財撤去への支援(「空家流動化支援事業」: 上限100千円(府1/2、市町村1/2))も制度化している</li> </ul>			



※移住者の住まいの確保支援の内数

事業概要	地域協議会等と連携する企業、団体等の、移住者の確保を目的とした住まい（宿舎、賃貸住宅等）の設置を支援			
	R4	R5	R6	R7
実績額（千円）	600	2,400	1,800	548
実績（補助件数）	1	4	3	3
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 担い手不足が深刻な農業や水産業などの一次産業等の維持に貢献</li> <li>● 若者を中心とした農山漁村地域の新たな担い手の確保により地域コミュニティの活性化に寄与</li> </ul>		<p><b>【実施スキーム】</b></p> <p>移住者 → 移住 → 宿舎・賃貸住宅等  企業、団体の住まいの設置  ↑  京都府及び市町村が連携して支援</p>	
備考	社員寮等として活用できる物件の確保が課題			





※移住検討者に対する情報発信の内数

事業概要	京都・東京・大阪にて移住相談窓口を運営し、移住検討者と府内市町村とのマッチングや移住イベントへの出展等を実施			
	R4	R5	R6	R7
実績額(千円)	41,000	41,000	41,000	43,300
実績(相談件数)	1,228	905	904	1,232
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移住コンシェルジュを配置し、様々なニーズに合わせた移住相談が可能</li> <li>● 府内移住支援情報を一括して発信し、一元的な相談窓口として移住検討者の円滑な受入(市町村の移住相談窓口への直結)に寄与</li> <li>● 東京や大阪、名古屋の都市で開催される大型移住イベントに出展し、移住先としての京都のPRを積極的に発信</li> </ul>		<p><b>【実施スキーム】</b></p> <p>移住検討者 → 移住相談 → 移住センター</p> <p>京都府が補助金を支出</p>	
備考	ジョブパークとも連携し、職住に関する相談も受入れ			




※移住定住へのフォローアップの内数

事業概要	移住者受入れのために活動する地域団体に対し、受入地域の情報発信や空家の実態調査等の活動支援を実施			
	R4	R5	R6	R7
実績額(千円)	838	250	596	218
実績(補助件数)	4	1	3	3
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移住者受入れに積極的な地域団体が活用</li> <li>● 地域団体では、地域の暮らしの環境に関する情報を発信する“地域ガイド”を制作し、移住者や移住検討者の円滑な受入れに寄与</li> </ul>		<p><b>【実施スキーム】</b></p>  <p>移住促進に取り組む地域団体</p>  <p>京都府及び市町村が連携して支援</p>	
備考	地域が主体となって取組をすすめられるよう、機運醸成が進んだ地域の成功事例を共有			



※移住定住へのフォローアップの内数

<p>事業概要</p>	<p>条例に基づく「移住者受入・活躍応援計画」を策定し、地域での交流促進や仕事づくり等をテーマとしたまちづくり事業を実施する市町村に対し、まちづくり拠点のハード整備費及び交流促進や仕事づくり事業のソフト経費について支援</p>			
	R4	R5	R6	R7
<p>実績額(千円)</p>	0	314	770	2,212
<p>実績(補助件数)</p>	0	3	2	4
<p>成果</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 移住希望者等の滞在拠点の整備や農村交流体験等の実施により、一部地域では、地域内外の交流促進につながっている(綾部市上林地区・宮津市宮津地区)</li> </ul> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>【実施スキーム】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>移住者受入・活躍応援計画 (市町村作成)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり拠点のハード整備</li> <li>・交流促進や仕事づくり経費</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">京都府が支援</div> </div> </div> </div>			
<p>備考</p>	<p>綾部市や宮津市での事例を応援計画を策定している市町村と共有し、地域ごとの移住者受入の環境整備が進められるよう支援していく。</p>			



※移住者の仕事の確保支援の内数

事業概要	農林漁業者等を対象に、滞在型農山漁村体験の受入に必要な施設整備等を支援			
	R4	R5	R6	R7
実績額（千円）	3,000	6,000	1,980	1,335
実績（補助件数）	2	4	2	1
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>府内農家民宿の開業数、利用者数ともに増加傾向にあり、交流人口等の創出や農山漁村地域の活性化に寄与</li> </ul> <p>(参考) R7農家民宿数累計：139件 R7利用者数：13,004人</p>		<p><b>【実施スキーム】</b></p> <p>農家民宿等</p> <p>農林漁業者等による施設整備</p> <p>京都府が支援</p>	
備考				



※移住者の仕事の確保支援の内数

事業概要	移住促進特別区域における移住者の起業に係る初期整備を支援			
	R4	R5	R6	R7
実績額(千円)	21,746	22,524	22,539	24,105
実績(補助件数)	15	16	16	17
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移住後の仕事づくりや地域の交流拠点の形成等を通じて農村地域等の活性化に寄与</li> <li>● 併せて、地域の空家の解消にも寄与</li> </ul>		<p><b>【補助スキーム】</b></p> <p>(空家等の) 起業を目的とした改修費用</p> <p>京都府及び市町村が連携して支援</p>	
備考	補助スキームにおいて、地域の商工会議所や商工会等との連携を取っており、起業後のサポート体制を構築			



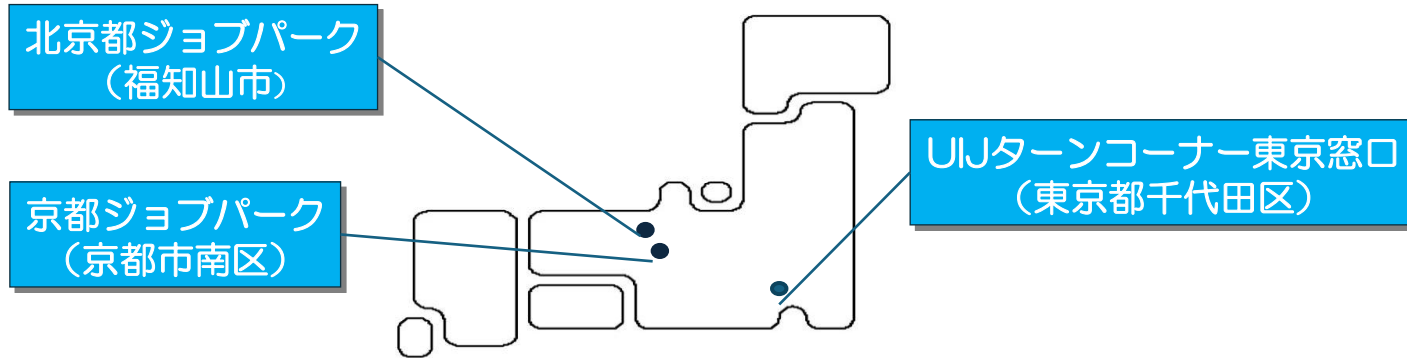
※移住者の仕事の確保支援の一部

## 事業内容

京都府への就職相談や、WEB上での京都府の企業情報提供、マッチング機会の提供等を通じて、府外から京都府内企業へのU I Jターン就職を支援する取組を実施する。

## 就労相談拠点

全国の都市部に潜在・顕在するUIJターン就職希望を就職フェア等で掘り起こすと共に、オンラインマッチングサイト「ジョブこねっと」を通じて京都企業の魅力・イベント等を発信し、府内への就職を促進



登録求職者フォロー	
	メール相談
	電話相談
	対面相談
	WEB相談
	LINEでの相談

## 支援内容

### 1 UIJターン求人の開拓・発信

精力的な企業訪問コンサルタントの活動によりUIJターン求人を開拓し、オンラインマッチングサイト「ジョブこねっと」の特集ページにより発信

### 3 北部出身者のUターン促進

保護者勉強会、高校生向け地元就職啓発等により大学卒業時にUターン就職を促す仕組み

### 2 多様なマッチング機会創出

- ▶ 就職支援協定締結大学※と連携して企業説明会等の実施  
※ 府内 44校 関西圏 23校 首都圏 27校 中京圏 8校 福岡都市圏 4校
- ▶ 都市部（東京・大阪）での民間就職フェアに京都ブース出展し、マッチング機会を創出

### 4 移住支援事業

東京23区内に在住又は通勤の方が、地方へ移住して就業等を行う場合に、移住支援金（国事業）を支給

## <R7実績>

U I Jターンによる京都府内企業への就職内定者数 424人（うち北部地域 113人）

## Ⅱ. 各分野の施策も活用した移住促進の取組



## ○令和7年度交付実績

「きょうと地域連携交付金」では、府と市町村、市町村相互の連携を強め、一体となった地域づくりを推進していくため、府の施策と相乗効果を発揮し、地域課題の解決に取り組む市町村の事業を支援。

きょうと地域連携交付金による支援事業のうち、移住促進に関連するものとして、以下のような事業が挙げられる。

- ・ 移住フェアにおける地域プロモーションの実施（福知山市）
- ・ 移住コンシェルジュサービスの展開（宮津市）
- ・ 既存移住者と移住希望者の交流の場づくり（南山城村） 等

※令和8年度6月補正予算案においては、「持続可能な地域共創交付金」を計上しており、人口減少により生じる地域課題や人手不足への対策、小規模市町村の行政運営の効率化に資する取組を重点支援することとしている。



# 地域交通の維持・確保を通じた 定住促進に関する支援施策

建設交通部  
交通政策課

## ○現状・事業内容

- ・人口減少等により公共交通の利用者は減少傾向にあり、交通事業者の経営環境の悪化や運転士不足による減便や路線の廃止の拡大が懸念
- ・持続可能な地域交通確保へ、人材確保の取組や労働環境の改善及び生産性向上に資する取組を支援する必要



地域に安心して住み続けられる環境を整えることで、移住・定住の促進に寄与

## ○実績

- ▶ 二種免許取得支援をはじめとする交通事業者の人材確保対策の取組を支援
- ▶ 今年度からの新たな取組
  - ・人材確保対策等の取組の支援対象を公共ライドシェア運営主体にも拡大
  - ・市町村や交通事業者による待合所整備等利用者環境改善の取組への支援

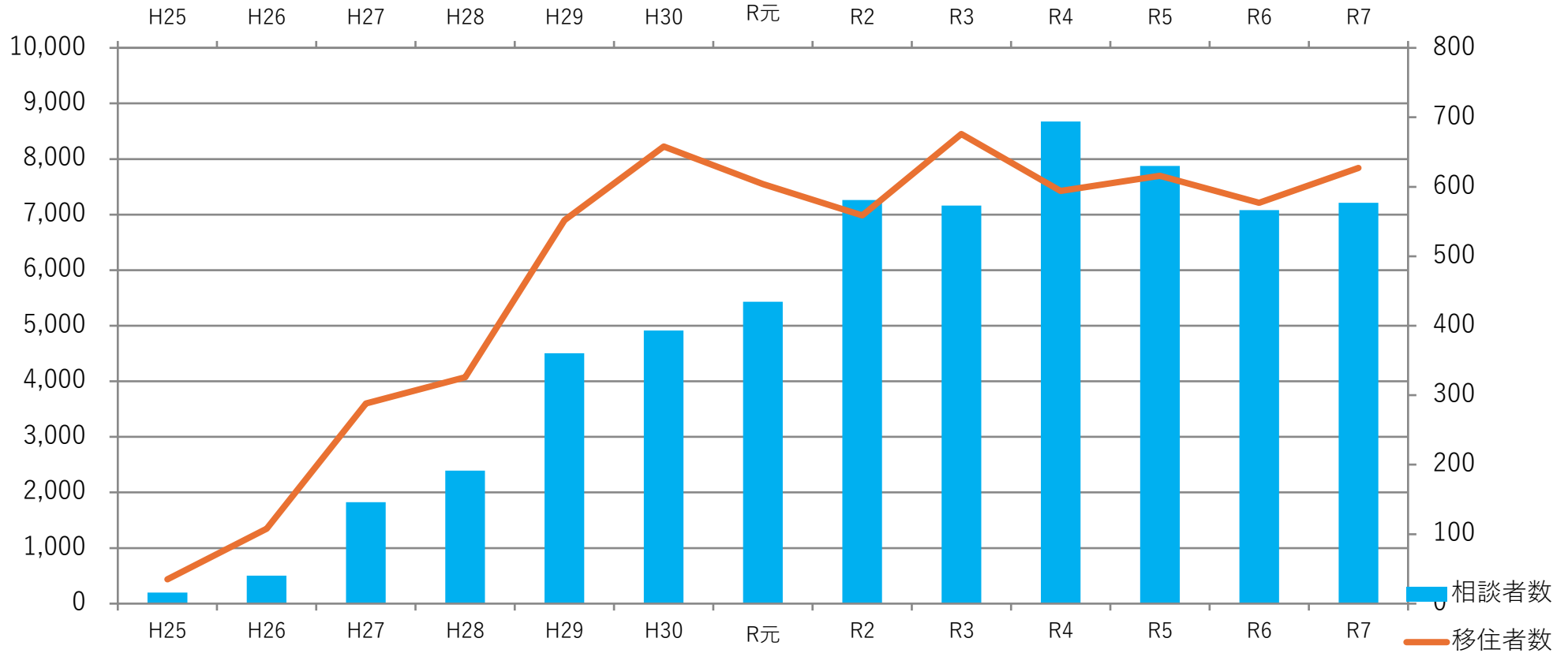


## ○予算

令和8年度予算額（参考）暮らしを支える交通ネットワーク支援事業費（400,000千円）



# 移住者数・移住相談者数の推移



年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
移住相談者数 (市町村窓口含む)	1,824	2,395	4,506	4,916	5,434	7,262	7,163	8,673	7,879	7,079	7,212
移住者数	288	326	552	658	604	559	676	594	616	577	627



## 現状・課題

- ・東京圏における移住相談件数は全体的に上昇傾向である一方、京都府は伸び悩み
- ・移住相談が増加している都道府県では、動画配信やデジタルコンテンツが充実
- ・この間、イベント等で幅広い層に京都をPRしてきたが、  
移住潜在層の興味関心に訴求するプロモーションが十分にできていない



## 都市部の移住潜在層(若年層)向けのプロモーションを強化する必要

### 「移住するなら京都」プロモーション事業

#### 【事業概要】

都市圏の若者を中心とした移住検討者や移住の潜在層をターゲットに、デジタルを活用した効果的な移住PRを行うことで地域の訪問へと繋げる

各コンテンツで  
「今日と明日」をPR!

#### 【主な内容】

- ① 府の移住制度や府域の魅力紹介の動画作成
- ② SNS等での動画発信や、検索連動型広告等による移住潜在層へのプロモーション
- ③ 京都府の公式WEBサイト等、既存コンテンツの機能強化



# 関係人口 ～地域を担う新たなプレーヤー～

- 京都府内においても、**京丹後市や京丹波町などで二地域居住者や地域外の人材が地域で活躍する事例**が生まれ始めている。



奈良県居住者が二地域居住先（京丹後市）で商店をオープン

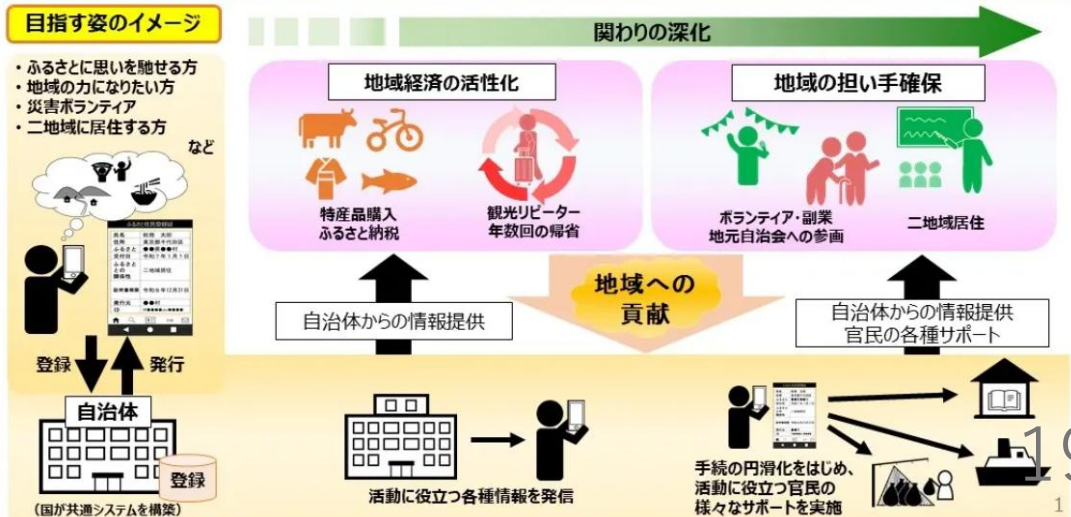


京丹波町のファンクラブ会員：リリース2年半で1700名以上

- 総務省が、関係人口を可視化し、地域の担い手確保や活性化等につなげる仕組みとして「**ふるさと住民登録制度**」を創設
- 国交省のアンケートでは、全国の18歳以上の居住者のうち、約2割強が特定の地域に継続的かつ多様な形で関わっている（≡関係人口）ことが判明

## 「ふるさと住民登録制度」の創設について

- 出身や居住経験といった縁がある「ふるさと」には、誰しも特別な思い入れがある。また、デジタル化の進展やライフスタイルの多様化により、**副業、さらには二地域居住**など、住所地以外の地域との関係も広がりを増している。
- こうした多様な姿を持つ「関係人口」を見える化し、**地域への継続的な応援を国民運動とするためのプラットフォーム**として、関係府省庁と連携し、「ふるさと住民登録制度」を創設する。
- 多くの国民や自治体に参加できるよう、**国が共通システムを構築し、「ふるさと住民アプリ」の早期リリースを目指す。**





# 京都に深く関わる関係人口の獲得に向けた取組

総合政策環境部地域政策室  
農林水産部農村振興課

地方には知られざる資源が眠っている!?

## ローカルとつながる “ひと・企業”交流会



**3.18 水**  
18:00-20:00

**内容** 日本海のみち・京丹後での地域資源を活用した事例を紹介!  
地域資源を活かしたワーケーション、宿泊・買貨施設、  
そして海ゴミを宝に変えるアップサイクル事例まで—  
都市×地域のビジネスがにつながるマッチングイベントです!

**場所** WeWork LINKS UMEDA  
(ヨドバシ梅田タワー 8F)

**参加費** 無料

**定員** 30名程度

主催・お問い合わせ  
京都府総合政策環境部地域政策室  
☎ 075-414-4458  
🌐 [https://www.kyoto.iju.jp/event/event\\_56117/](https://www.kyoto.iju.jp/event/event_56117/)

詳細はこちら  
  
締切 3.17必

## 大阪市内で京都府内への現地訪問 につなげる交流の機会を創出



トークセッションの様子

交流会の様子

## 東京都内で京都府での暮らしの魅力を発信



コンシェルジュによる  
移住者の紹介

交流会の様子

## KYOTO FAN MEETING

京都ファンミーティング

移住ストーリーから描く次の一歩

2026.3.28 13:00-16:00  
@移住・交流情報ガーデン(東京都)

参加無料・要予約

特別なことなんてない、ふつうに京都で暮らしたい。  
憧れだけじゃない、「暮らす」を一緒に考える“京都好き”に贈るイベント。

「京都が好き!」のその先へ。  
一緒にあなただけの移住計画マップをつくりませんか?

「京都が好きで、何かのかたちで関わってみたい」方向士の交流の場、京都ファンミーティング。今回のファンミーティングでは、みなさんの「京都が好き!」を前進させるために、きっかけづくりとなるワークショップ&交流会を実施します!

【当日のラインナップ】  
コンシェルジュが紹介! 京都暮らしの実践者たち  
移住窓口を介して移住された方のストーリーをご紹介し、  
移住ステップを一緒に考えていきます。

ワークショップ「自分だけの京都移住整理マップをつくらう」  
移住イメージを言語化して、相談でも使える整理マップをつくりましょう。

参加者みんなで交流会  
お菓子をつまみながら、京都トピックで一緒に盛り上がろう!  
交流会時には個別移住相談も実施します。

いつか京都府内に住みたい  
移住の不安を共有・解消したい!  
移住検討者と一緒に交流したい

詳細とお申込みはこちらのQRコードから!  
京都府公式移住・交流情報サイト「今日と明日」に遷移します

主催: 京都府移住センター 協力: 京都府 企画・運営: 京都府移住センター(京都移住コンシェルジュ) / 京都ジョブアップ

他にも、東京や大阪、名古屋等で開催される全国移住イベントにも出展  
来場者に対して、京都への移住や関わり方について説明・相談対応



# ワールドマスタースゲームズ2027関西概要

文化生活部  
スポーツ振興課

- 1 開催期間** 2027年5月14日（金）～ 30日（日）の17日間
- 2 開催競技** 公式競技 35競技59種目（他 オープン競技実施）
- 3 開催場所** 福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市  
(京都市含む府内8市町において11競技開催、京都市岡崎エリアにおいて開会式)
- 4 開催目標** 参加者5万人（国内3万人、国外2万人：150か国・地域以上）
- 5 主催** 公益財団法人ワールドマスタースゲームズ2021関西組織委員会  
開催府県政令市実行委員会及び開催市町等実行委員会
- 6 共催** 公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本パラスポーツ協会
- 7 後援** スポーツ庁



**ワールドマスタースゲームズ**  
**2027 KANSAI / JAPAN**





府内への移住者や、地域に関わる様々な人が、  
住民とともに地域で活躍できる環境づくりを  
進めてまいります。

ご清聴ありがとうございました。

(案)

令和8年 月 日

京都府議会議長 荒 卷 隆 三 殿

魅力ある地域づくりに関する特別委員長 宮 下 友紀子

### 閉会中の継続審査及び調査要求書

本委員会に付されている事件は、下記の理由により、引き続き審査及び調査を要するものと認めるから、京都府議会会議規則第75条の規定により申し上げます。

### 記

#### 1 件 名

大学の知と学生の力を取り入れた地域活性化、観光やスポーツを通じた様々な交流機会の拡大など、地域のポテンシャルの向上を目指した魅力ある地域づくりに関する施策について

#### 2 理 由

審査及び調査が終了しないため

令和8年5月15日

京都府議会議長 荒 卷 隆 三 殿

魅力ある地域づくりに関する特別委員長 田 島 祥 充

魅力ある地域づくりに関する特別委員会中間報告書

京都府議会会議規則第46条第2項の規定により、令和8年5月府議会臨時会閉会後から現在に至るまで、本委員会が調査及び研究してきた状況について、別紙のとおり中間報告いたします。



(別紙)

## 魅力ある地域づくりに関する特別委員会中間報告書

### 1 本委員会の設置目的

大学の知と学生の力を取り入れた地域活性化、観光やスポーツを通じた様々な交流機会の拡大など、地域のポテンシャルの向上を目指した魅力ある地域づくりに関する施策について調査し、及び研究する。

### 2 本委員会の活動状況

#### (1) 委員会の開催について

- 令和7年6月10日、第7委員会室において、関係理事者から所管事項に係る事務事業概要について説明を聴取した。また、今期の委員会運営方針について協議を行うとともに、今後の調査・研究テーマに係る委員間討議を行った。
- 令和7年6月26日、第7委員会室において、「京都府が目指す魅力ある地域づくりについて」をテーマに、関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年9月29日、第7委員会室において、富山大学 名誉教授・特別研究教授、京都大学 名誉教授 中川 大 氏を参考人として招致し、「公共交通の活性化と駅を核とした広域的な地域づくりについて」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、鉄道をはじめとする公共交通政策と地域づくりの取組について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年12月15日、第7委員会室において、平野屋商店街振興組合 専務理事 福原 習作 氏を参考人として招致し、「商店街を中心とした地域の活性化について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、平野屋商店街における商店街活性化の取組について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和8年3月10日、第7委員会室において、株式会社ビバ 代表取締役社長、合同会社ビバ&サンガ 職務執行者 小森 敏史 氏を参考人として招致し、「スタジアムなどのスポーツ施設を活用した地域づくりについて」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、サンガスタジアム by KYOCERA を中心とした地域活性化の取組について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。

- 令和8年5月15日、第7委員会室において、中間報告に係る協議を行った。最後に、今期1年間の委員会活動に係る所感、要望等の意見開陳を行った。

## (2) 管外調査の実施について

以下の取組について調査を行った。

○調査日：令和7年8月26日

調査先：糸魚川市議会〔於：フォッサマグナミュージアム〕

〔現地視察：フォッサマグナパーク〕（新潟県糸魚川市）

調査事項：ジオパークを活用した地域づくりについて

糸魚川ユネスコ世界ジオパークは、新潟県糸魚川市全域をエリアとするジオパークである。中央部を東西に横断する糸魚川－静岡構造線を境に、日本列島の形成を示す地質や地形が確認できることが評価され、平成20年に日本ジオパークに、翌年には日本で初めてユネスコ世界ジオパークとして認定された。

糸魚川市は、持続可能な地域発展を目指すため、令和4年度から令和8年度までの5か年間でジオパークのアクションプランの実施年度とし、第3期ジオパーク戦略プロジェクトを策定した。同プロジェクトでは、地域、学校、行政、事業者等が連携し、①保護・保全、②教育・防災、③地域振興、④事業推進の4つを中心に取組を進めている。

具体的な取組として、ジオパーク地域内に生息する希少野生動植物の保護や構造線の文化財指定のほか、「糸魚川ジオ学」と題したジオパーク学習などがあり、地域の児童生徒全員が同じレベルで学ぶことができる環境づくりのため、学芸員を講師とした教員向けの研修会なども開催している。また、地域資源の保護やジオパークを活用した地域振興に寄与する企業等とパートナーシップ協定を締結し、ジオパークに関する商品の売り上げの一部を協議会に寄付してもらうことで財源確保にも取り組んでいる。

今後は公・共・私を結ぶ新たなプラットフォームの設立のため、糸魚川市観光協会との組織統合を行うことで、「稼ぐ観光」に向けてステークホルダーの巻き込みと地域の発展を目指していくとのことであった。

○調査日：令和7年8月27日

調査先：株式会社能作（富山県高岡市）

調査事項：ものづくり産業を活用した地域の魅力づくりについて

株式会社能作は、仏具や茶道具、花器を製造する工場として大正5年の創業以来、伝統工芸品にとどまらず、インテリアや日用品など分野を超えたものづくりに挑戦している高岡銅器の鋳物メーカーである。

「もの」をつくるだけでなく、「こと」と「ところ」を伝えるために産業観光を推進しており、高岡市の伝統産業である高岡銅器の製造方法や歴史、現状、今後の展望について一般に公開する新社屋を平成29年4月にオープンし、同時に社内に産業観光部を立ち上げ、本格的に産業観光の受入れを開始した。ガイドの案内によるファクトリーツアーでは、職人の作業環境を五感で体感でき、鋳物が作り上げられる現場の匂いや温度などの感覚を通じて、ものづくりの空気感を味わうことができる。そのほか、鋳物の製作体験や鋳物の器を使ったレストランなど、様々な産業観光のコンテンツを提供している。

また、能作だけで観光客を独占すべきではないと考えており、同社に訪れた方がさらに富山県の各地域に足を運んでもらえるよう、各地域の特産品や観光地などが記載された観光カードを自主作成し、自由に持ち帰ることができるようにしている。観光カードがあるコーナーは「TOYAMA DOORS」と名付けられ、富山県観光のハブとなる役割を担っている。

新社屋のオープン以降、多くの人を訪れる地域の観光拠点になっており、今後もものづくり産業を活用した地域振興に取り組んでいくとのことであった。

○調査日：令和7年8月27日

調査先：富山県議会、株式会社ZORGE〔於：富山県議会〕  
(富山県富山市)

調査事項：eスポーツを活用した地域づくりについて

富山県では、令和元年度から全国に先駆けてeスポーツを地域活性化の手段として積極的に推進している。令和5年度からは地域の観光資源を活用し、県外eスポーツイベントとの連携やデジタルを活用した情報発信を行うことを条件に、県内でのeスポーツイベント開催を支援する「eスポーツ関係人口創出事業」を開始した。

また、県内高校生のeスポーツに対する理解促進やDX人材育成を目的に、企業版ふるさと納税を活用した「eスポーツを通じたDX人材育成プログラム」を県内のモデル校で実施した。そのほか、高齢者福祉担当部門において地域の公民館などで高齢者のeスポーツ体験会や大会などを行っており、介護予防や高齢者の外出機会の創出、多世代交流などの効果が得られている。

株式会社ZORGEは、富山県を拠点にeスポーツ関連事業を展開しており、「ゲームを通じて未来をつくる。」をミッションに、ただゲームを楽しむのではなく、ゲームを通じた社会課題の解決を目指している。

平成28年から大規模なeスポーツイベント「TOYAMA GAMERS DAY」を開催しており、イベントを通じて地域の魅力を広めるため、県内の酒

造メーカーと連携したイベントや特産品を賞品とするなど、様々な工夫を行っている。そのほか、高齢者や高校生を対象とした県事業の運営を担当しており、地域や自治体と連携しながら、eスポーツを活用した様々なプロジェクトに取り組んでいる。

今後も自治体との連携を強化し、富山県のみならず、全国でeスポーツを通じた地域振興に取り組んでいくとのことであった。

### 3 本委員会の所管に係る主な動き

- 令和7年9月、京都府は、サンガスタジアムでの試合終了後の亀岡駅の混雑緩和に向け、来場者のより一層の安全確保強化と満足度向上を図ることを目的に、マルシェの延長営業やeFootball体験会などの社会実験を実施した。
- 令和7年12月、京都府は、二地域居住促進に係る拠点施設の設置や、その整備を特に促進すべき重点地区を示すため、京都府広域的地域活性化基盤整備計画（二地域居住）を作成した。
- 令和7年12月、国土交通省は、令和の時代に合った都市再生を推進し、地域に投資を呼び込み、個性ある都市空間をつくる令和の都市リノベーション推進に向け、「まちづくりの健康診断」の実施と「令和の都市リノベーション全国推進運動」の展開を開始した。
- 令和8年2月、京都府は、競技の垣根を越えた他に例のない新しいスポーツ振興の拠点及びコンサートの開催や災害時の避難場所など幅広く活用できる施設として整備する京都アリーナ（仮称）の起工式を執り行った。

### 4 残された主な課題

本委員会の設置目的に掲げられた諸課題について、調査及び研究を進めた結果、なお引き続き調査及び研究を要する次のような課題が残されていると考える。

- 持続可能な観光地域づくりについて
- 人口減少・高齢化社会における持続可能な地域づくりについて
- 地域内外における交流やつながりについて
- 住み続けたいと思う地域づくりについて
- ミュージアムを中心としたまちづくりについて

# 魅力ある地域づくりに関する特別委員会 活動状況 <付録>

(令和7年5月～令和8年5月)

年月日	区分	主 な 内 容
7. 5.23	委 員 会	1 委員長の選任 2 副委員長の選任 3 副委員長の順位
6.10	正副委員長会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 本日の委員会運営
6.10	委 員 会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 所管事項に係る事務事業概要 4 今期の委員会運営方針 5 委員間討議 「今後の調査・研究テーマについて」 6 今後の委員会運営
6.17	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
6.26	委 員 会	1 所管事項の調査 「京都府が目指す魅力ある地域づくりについて」 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
8.26 ～27	管 外 調 査	▷ 糸魚川市議会〔於：フォッサマグナミュージアム〕 ▷ 株式会社能作 ▷ 富山県議会、株式会社ZORGE〔於：富山県議会〕
9.13	管 内 調 査	▷ 2025体育館フェスタ開始式 (行催事等委員会調査)
9.18	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
9.27	管 内 調 査	▷ 京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業2025「京都キッズスポーツフェスタ」開会式 (行催事等委員会調査)
9.29	委 員 会	1 所管事項の調査 「公共交通の活性化と駅を核とした広域的な地域づくりについて」 参考人：富山大学 名誉教授・特別研究教授 京都大学 名誉教授 中川 大 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
10.26	管 内 調 査	▷ 第48回京都府民総合体育大会オープニングフェスティバル オープニングセレモニー（総合開会式） (行催事等委員会調査)
12. 5	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営

年月日	区分	主な内容
7.12.15	委員会	1 所管事項の調査 「商店街を中心とした地域の活性化について」 参考人：平野屋商店街振興組合 専務理事 福原 習作 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
8.3.9	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
3.10	委員会	1 所管事項の調査 「スタジアムなどのスポーツ施設を活用した地域づくりについて」 参考人：株式会社ビバ 代表取締役社長 合同会社ビバ&サンガ 職務執行者 小森 敏史 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
5.15	正副委員長会	1 臨時会中の委員会運営
5.15	委員会	1 中間報告 2 委員会活動のまとめ

委員会	7回	管内調査	3回(3日)
正副委員長会	6回	管外調査	1回(2日)

## 令和8年5月臨時会 委員会活動のまとめ

### ○西條利洋委員

よろしくお願ひいたします。

田島委員長をはじめ、津田副委員長、大河内副委員長、そして委員の皆様には、この1年間、多大なる御尽力と温かい御指導を賜りましたことに、心より感謝と敬意を表します。また、常に真摯かつ的確な資料提供や答弁をいただきました理事者並びに事務局の皆様にも厚く御礼申し上げます。

本委員会の設置目的は、大学の知や学生の力の活用、観光やスポーツを通じた交流機会の拡大など、地域のポテンシャルを最大限に引き出す施策の調査・研究でありました。1年間という限られた期間ではございますが、現場の声に根ざした非常に密度の濃い議論ができたと感じております。

特に印象深いのは、12月の所管事項調査において舞鶴市の平野屋商店街の事例を扱ったことです。一過性の集客に終わらせず、空き店舗を活用したチャレンジショップや高齢者の憩いの場となるおでかけ保健室など、商店街を日常の交流拠点として再生させる地道な努力は、地域主導のまちづくりの真髄を見る思いでした。

また、サンガスタジアムを活用した地域づくりの事例も極めて示唆に富むものでした。スタジアムを単なる試合会場としてだけではなく、ドローンサッカーやeスポーツ、さらにはウエディングやテント泊といった自由な発想で365日にぎわう拠点へと進化させている点は、本府のほかの公共施設の在り方を考える上でも重要な視点だと感じました。

こうした調査を通じて痛感したのは、魅力ある地域づくりの鍵は、人と場のつなぎ方にあるということです。商店街のような生活の場に新たな活力を吹き込む仕組みとスタジアムのような大規模施設を多機能化、開放化する戦略、この両輪をいかに効果的に支援し、横展開していくかが京都府に求められている役割であると確信いたしました。

最後になりますが、本委員会で得られた知見を糧に、府民の皆様が住みたい、帰ってきたいと誇れる京都府の実現に向け、今後とも微力ながら尽力してまいります。

1年間、誠にありがとうございました。

### ○相原佳代子委員

それでは、私からこの1年間につきましての感想を申し述べたいと思います。

私は令和7年7月に魅力ある地域づくりに関する特別委員会に所属させていただきました。早くも10か月を迎えようとしております。本委員会に所属が決まりましたとき、特別委員会の名称をお聞きしたわけでございますが、まさに住民にとっても働き手や学生を含む生活者全てにとって魅力ある地域づくりこそまちづくりの命題であり、我々は行政と手を携えて26市町村の魅力ある地域づくりを連携して進めていくために、日々精進してまいることを再認識した次第でございます。

この間、田島委員長、津田副委員長、大河内副委員長の円滑な委員会運営により、大変意義のある委員会活動を送らせていただきましたことに、まずもって心より御礼申し上げます。

ます。

あわせて、各委員皆様から御親切にお教えをいただき、お世話になりましたことに感謝申し上げます。

また、事務局の皆様には、管外調査をはじめ委員会ごとに多岐にわたり御教示賜りまして、誠にありがとうございました。

何よりも理事者の皆様には日頃より本委員会の所掌事務や課題などにつきまして丁寧な御説明や質疑を重ねることができ、魅力ある地域づくりに関する特別委員会委員といたしまして心より感謝申し上げます。

京都府内には多くの大学があり、多くの学生が日々学びを進める中で、大学の知と学生の力を取り入れた地域活性化は、魅力ある地域づくりに直結するものであります。観光やスポーツを通じた様々な交流機会の拡大など、地域のポテンシャルの向上を目指した魅力ある地域づくりに関する施策は大変重要であります。

管外調査で訪れた糸魚川市では、日本で初めてユネスコ世界ジオパークに認定されました糸魚川ユネスコ世界ジオパークのフォッサマグナミュージアムを見学し、ジオパーク協議会の事務局様より説明をお聞きしました。持続可能な地域発展を目指すため、5か年をかけてジオパークのアクションプランを実施し、地域、学校、行政、事業者が連携して保護・保全、教育、防災、地域振興、事業推進の取組を進められ、今後は公・教・私を結ぶ新たなプラットフォーム設立に向けまして、糸魚川観光協会との組織統合を行い、稼ぐ観光に向けてステークホルダーの巻き込みと地域発展を目指すという意気込みについてもお聞きしました。

昨年9月には、公共交通の活性化と駅を核とした広域的な地域づくりについてをテーマに、京都大学名誉教授の中川氏を参考人招致し委員会が開催されました。人口減少、特に高齢化が急激に進む中、デジタル技術や公民連携を活用した観光やスポーツ交流の活性化に向けて、持続可能なモビリティの確保や駅周辺の整備を地域づくりの中核に据えて、地域間連携による広域的な地域の活性化はますます重要になってくるであろうし、そのためには、府内を構成する各市町村においても、各種モビリティの地域連携はまさしく必須条件であると感じました。

また、12月に開催されました平野屋商店街振興組合専務理事の福原氏を参考人招致した商店街を中心とした地域の活性化では、子どもたちから大人、お年寄りまでがこぞって楽しめる歴史風情を知り、地元に着用を持つ人材育成にもつながる取組になっていることも重要な視点だと感じました。

また、今年3月には、株式会社ビバ代表取締役社長の小森氏を招致し、スタジアムなどのスポーツ施設を活用した地域づくりについて、サンガスタジアムのあるまちとして、いかにして365日にぎわうスタジアムにするか、いかにして京都や日本の未来に貢献するスタジアムにするか、またサンガスタジアムにしかできないことは何かなど、試合のない平日においても、飲食はもとより健康教室や子育て支援の拠点づくり、またウエディングなどあらゆる市民活動における拠点とした取組に感嘆した次第でございます。

私自身、本委員会で学ばせていただきましたことを今後の議会活動や委員会活動、また地域活動に生かしてまいりたいと考えます。お世話になりました皆様に感謝を申し上げ、まとめとさせていただきます。誠にありがとうございました。

### ○水谷修委員

1年間、正副委員長、各委員、理事者、そして議会事務局の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

今日、魅力ある地域づくりに関する施策の充実が求められています。とりわけ地方や地域の人口減少などによって、地域社会の文化の保存や創造のための支援を進めていくことが重要だと思いました。

本特別委員会では、京都大学名誉教授の中川大参考人から公共交通と地域づくりについてお話をお聞きしました。鉄道など公共交通の充実、とりわけ公共の役割について、今後にかかしてまいりたいと考えます。

この間、有識者や関係者を招いて知見などをお聞きして質疑などを行ってまいりましたが、今後は魅力ある地域づくりに係る府理事者との議論を広く行えるような運営について御検討いただき、次期の特別委員会運営が進展できますように要望いたしまして、私のまとめとします。

ありがとうございました。

### ○上倉淑敬委員

よろしく申し上げます。

田島委員長、津田副委員長、大河内副委員長はじめ、委員の皆様と理事者の皆様、事務局の皆様にも1年間お世話になり、ありがとうございました。本委員会のテーマに沿った各定例会での参考人のお話や視察先でも大変勉強させていただきました。

府内では、サンガスタジアムを活用した地域活性化の取組や平野屋商店街の取組など、まだまだ魅力ある地域づくりに生かせるポテンシャルがあると学ぶことができました。

また、中川京都大学名誉教授の公共交通と地域の活性化のお話は大変重要な視点であり、地域の活性化につながる鉄道など、公共交通の利便性を向上させることや歩行者の空間を広くつくるような都市の設計について、今後も学んでまいりたいと思います。

また、本委員会の設置目的にもなっております大学の知と学生の力を取り入れた地域活性化については、多くの大学が設置されている京都ですので、今後も調査・研究を行ってまいりたいということをし添えまして、まとめの発言とさせていただきます。

1年間ありがとうございました。

### ○磯野勝委員

この1年間、田島委員長、津田・大河内両副委員長をはじめ委員の皆様、そして事務局の皆様には、円滑な運営にお努めいただきましたことを心から感謝を申し上げたいと思います。また、理事者の皆様方におかれましては、魅力のある地域づくりをはじめ各般行政に大変な御尽力をいただいたことを改めて感謝を申し上げたいと思います。

本委員会は大学の知見や学生の力を生かした地域活性化、さらには観光やスポーツを通じた交流拡大など、地域のポテンシャルを高める魅力ある地域づくりについて調査・研究を行うことを目的に設置をされたところでありすけれども、今期はまず京都府の取組状況を把握した上で、公共交通、商店街、スポーツ施設の活用といったテーマごとに議論を深めてまいったところでありす。

公共交通分野におきましては、駅を核とした広域的な地域づくりの重要性について、有

識者から知見を得るとともに、交通政策とまちづくりを一体で進める必要性を確認できたところでもあります。

また、商店街につきましては、地域の拠点としての役割を再認識して、現場の創意工夫による活性化の取組を学んだところでもあります。

さらに、サンガスタジアムをはじめとするスポーツ施設の活用では、交流人口の拡大や地域経済への波及効果について、その課題解決に向けて議論を行うことができました。

管外調査では、先進的な事例として糸魚川市のジオパークを活用した地域づくり、富山県のものづくり産業を生かした観光施策、そしてeスポーツを活用した新たな交流創出の取組などを調査し、地域資源をどう磨いてどう稼いでいくかという視点の重要性を強く認識したところでもあります。

また、サンガスタジアムの周辺のにぎわい創出や新たなスポーツ拠点の整備など、地域の魅力向上に向けた取組が着実に進められているなど感じました。

一方で、持続可能な観光、あるいは人口減少社会に対応した地域づくり、地域内外のつながりの強化など、引き続き取り組むべき課題も明らかになったのではないかと感じたところでもあります。

これらの課題に対して、地域資源を最大限に生かしながら、住み続けたい、あるいは訪れたいと思えるような魅力ある地域づくりの実現に向け、今後も実効性のある施策の検討を進めていただければと思っております。

結びに当たりまして、委員長、副委員長、そして委員の皆様、理事者の皆様には、この委員会を通じてたくさんのご意見を学ばせていただいたことに深く感謝を申し上げまして、まとめとさせていただきます。1年間、ありがとうございました。

## ○田中美貴子委員

よろしくお願いたします。

田島委員長及び津田副委員長、そして大河内副委員長におかれましては、委員会運営に大変御尽力いただきましてありがとうございました。理事者の皆様や事務局の皆様にもお世話になりました。また、委員の皆様におかれましても、活発に意見交換をする中で学びを深められたと感謝をいたしております。ありがとうございました。

さて、この魅力ある地域づくりに関する特別委員会ですけれども、大変幅広い内容で調査する委員会ですが、そういう意味では、調査対象を選別いただくことに大変御苦労いただいたのではないかと思っております。にもかかわりませず、参考人招致にいたしましても、管外調査にいたしましても、大変興味深く視野を広げられたと感謝をいたしております。ありがとうございます。

まず、管外調査では、富山県の株式会社能作に調査に行かせていただいたことが強く印象に残っております。広い敷地の中で伝統と革新を追求された作品、商品が並んで、鋳物の製作体験などがあって、まさにファクトリーツアーという感じで、ものづくりの面白さと観光を兼ねた産業振興を同時に発信するなど、新たな感覚を実体験したような気がいたしました。時間をかけて体験も含めて、また再訪したいと思ったところでもあります。

ちなみに、私がSNSで発信をしまして、それを見た方が訪れられたということもありましたので、少し地域貢献もできたのかなと思っております。

また、参考人招致では、公共交通の活性化と駅を核とした広域的な地域づくりで、中川

教授に様々な御提案と御指摘をいただきました。今後の公共交通という在り方を考えさせられた時間ではありましたが、私の選挙区では鉄道の駅がないまちがあるので、その辺りも大変興味を持った委員会となっております。単に公共交通という観点だけではなくて、まちをつくる人々の営みを時間の有効活用と乗り物のみならず、歩くことも含めて不便さと便利さというものの楽しみ方をしっかりと理解していくのも大事なのかなというふうなことを今、振り返らせていただいております。

もともと京都府は十分に魅力のあるところとは言えますけれども、市町村においてはまだまだ掘り起こしをした上で、さらに連携を深めていかなければならないことがたくさんあるのではないかと考えておりますので、今後も大変楽しみな特別委員会だと思っております。そういった中で、いずれにいたしましても適宜に合った参考人の招致であったり、管内外調査であったりと委員長、副委員長におかれましては私たちの意見も大変十分に取り入れていただきまして感謝を申し上げたいと思います。また、理事者の皆様におかれましても、今後もしっかりと魅力のある京都府が築かれるように御尽力をいただきたいと思っております。

1年間、大変ありがとうございました。

#### ○藤山裕紀子委員

よろしくお願いいいたします。

まずもちまして、田島委員長、津田副委員長、大河内副委員長はじめ委員の皆様、そして理事者の皆様、事務局の皆様には1年間、大変お世話になりました。委員会や管内外調査を通して視野を広げることができましたし、委員の皆様方の議論などからは、新たな視点と知識を得ることができた大変有意義な1年でした。

私は昨年続いて2年目のこの特別委員会ですけれども、魅力ある地域づくりとは永遠の課題のようなもので、今年もまとめが難しいなと思いながらまとめをつくらせていただいております。その中で、今期の取組の中で私が最も印象に残ったのは、先ほども出ておりましたけれども、舞鶴市の平野屋商店街の福原専務理事さんを参考人にお招きして聴取した商店街を中心とした地域の活性化についてのお話でした。一時は存続が困難なほどに売上げもお客様も減少したとのことでしたけれども、コロナを機に一旦リセットができて、その後、地域の拠点となるべく活動を展開されているという内容について御説明をいただきました。イベントの開催で誘客につなげるという取組もされているということでしたので、その後のフォローであるとか店舗さんへの支援などどうされているのかという質問をいたしましたら、そういったことはしないと、それぞれの努力にお任せしているというふうにおっしゃいました。一見冷たいように聞こえるかもしれませんが、実際そのとおりで、きっかけ自体は商店街のほうでつくってくださっている。その後は、イベントの中で得た気づきや学びから各店舗さん個々がそれぞれにいかにか工夫や努力をするか、そういうような御答弁もいただきまして、行政ではなかなかそこまで言い切れることはないかもしれませんが、参考人のお話を聞いて、それはそうだなというふうにすっきりしました。個々の店舗の努力があり、そういった店舗が集まっているからこそ、魅力ある商店街になるのだろうというふうに思います。そういうことを考えると、地域の魅力をつくるのは一人一人がよい地域にしたいという思いを持つこと、そして努力することも必要なのかなと思います。

また、とても参考になったのは、商店街に残っているのは専門性の高い店舗だとおっしゃっていたことです。その際にも申し上げさせていただいたんですけども、やはり観光客の方はその場の雰囲気や空気感を体感しに訪れておられるので、観光客の方々を目当てにした店舗が増えて、どこにでもあるような商品ばかりで消費するだけの商店街になってしまうと、最初は楽しいかもしれませんが、地域の方もいらっしゃらなくなるし、観光客も飽きてしまって来られなくなってしまうということがあり得るのではないかなと思います。どこにでもあるものというのは、大型商業施設にお任せをして、何かちょっと特別なものがあるというような商店街が生き残っていくのかなと思いました。そうになっていくことで、大型商業施設と商店街の共存は可能ではないかと思えますし、そういった買い物の使い分けができるということは、まちの魅力の1つだというふうに感じました。

最近よく言われるのが魅力ある地域とは居場所がある、参加ができるという自分が身を置ける余白の部分がある地域だということを知りました。整った町並みやはやりの店舗がある地域は、それも1つの魅力ではありますが、また来たい、ここに住んでみたいという居心地のよさにつながる自分の居場所がある余白、いい意味での隙がある地域、人も非の打ちどころがない人よりもちょっと隙のあるぐらいの人のほうが魅力的に見えるというようなことがあるというふうにも思えますので、今後そういった視点も持ちながら、この1年学んだことを生かして今後も活動してまいりたいと思います。

理事者の皆様にも府内地域の魅力向上のために、これからも御尽力賜りますことをお願い申し上げまして、大変取り留めのない内容になりましたけれども、3年目もありそうな気がしますので、これをもって2年目のまとめとさせていただきたいと思えます。

ありがとうございました。

## ○島田敬子委員

正副委員長はじめ委員の皆様、事務局、理事者の皆さん1年間大変ありがとうございました。参考人招致や管外調査で観光と商店街活性化、伝統産業とものづくり、公共交通、スポーツ振興と地域づくりの課題について学ぶことができました。

お話もありましたけれども、私も公共交通の活性化と駅を核とした広域的な地域づくりについての中川参考人のお話は率直な指摘がありまして、いろいろと気づきを与えていただきました。鉄道が都市に活力をもたらし、都市の活力が鉄道を支えるという鉄道とまちが相互に依存しながら相互に発展できるような関係にあるのが普通であるが、実際には日本の地方都市の圧倒的大多数がマイナスのスパイラルに陥ってしまっている現状、ヨーロッパやアジア、世界の多くの国々では地方が非常ににぎわっているのに比べて、日本は明らかに交通政策で失敗しているのではないかという御指摘もありました。交通政策が都市政策の重要な要素であるにもかかわらず、自治体が公共交通には口出しができない仕組みの中、都市政策につながらない非常に大きな要因になっていること、公共交通の利便性向上というものを行政の側でほとんど何もやっていないと、事業者に丸投げではないかという厳しい御指摘もありました。

また、もう一つのネックが日本においては公共交通は採算が取れるのは当たり前という考え方がありますが、これ自体が駄目であって、採算を取ろうとすること自体が社会的なマイナスになっている、こういう当たり前のことがなぜ日本では政策として行われないかと言わざるを得ないとまでおっしゃいましたけれども、そして予算面も含めまして御指

摘がありました。富山ライトレールのダイヤ改正で1時間に4本、15分間隔のきれいなダイヤにしたことによってお客さんが増え、お昼間には高齢者がまちにどんどん出てくるようになった、非常に便利にしたことの成果は採算ではないとの指摘がありましたが、そのとおりだなと思っています。

地方の地域では、バス路線の撤退廃止が進み、地域で住み続けられなくなっている現状が広がっていると思います。市町村ではデマンドバスとか地域コミュニティーバスとか様々な取組が行われておりますけれども、国や京都府の財政支援はほとんどないという現状であります。地域交通が公共サービスであるという立場に立って、府と市町村が連携して住民の足を守っていく施策の推進が必要だなというふうに感じました。残された課題に上げられておりますように、少子高齢化が進む地域において持続可能な地域づくり、まちづくりをどうするのか、何より住み続けたいと思う地域づくりに何が必要か、大変重要な課題が上げられておりますが、この点では今委員会ではあまり議論ができなかったんですけれども、引き続き新年度は大いに調査・研究をしていただき、府の施策について深い議論ができるような委員会運営にもなればと思います。

1年間、大変ありがとうございました。

#### ○大河内章副委員長

まずもちまして、田島委員長をはじめ津田副委員長、委員の皆様、そして理事者及び事務局の皆様には1年間お世話になり、ありがとうございました。

所管事項の調査では、1年間通して数々のテーマを勉強させていただきました。

まず、管外調査におきましては8月に訪問した富山県のものづくり産業を活用した地域の魅力づくりとして株式会社能作様を訪問させていただきましたが、伝統工芸品にとどまらない新たな産業観光としての位置づけをされて、本当に多くの方が来場されていると。その中でもファクトリーツアーで職人の作業環境をしっかりと体感できるということで、多くの方の魅力を創出されているなというふうに思いました。

加えまして、それを能作様だけの成功事例にとどまらず、観光のハブとしての役割を担われていることに大変共感を覚えた次第でございますので、しっかりこれも京都府に持ち帰っていききたいなというふうに思いました。

また、同じく富山県のスポーツ関係事業の株式会社ZORGE様のeスポーツの関連事業におきましては、ゲームを通じて未来をつくるということで、ゲームを楽しむというだけではなくて、次世代のeスポーツの在り方として社会課題の解決を目指されているという取組に関しても大変共感を覚えました。

府内におきましては、合同会社ビバ&サンガ様のサンガスタジアムのスポーツ施設に関する説明を受けたわけなんですけれども、実際に訪問させていただいたときも、木育ひろばであったりとか、家族の方が気軽に立ち寄れるフードコートとかキッチンカーとか本当ににぎわいを設けさせていただいて、過去最多の53万人という方が利用されたということは本当に大きな成果であったなというふうに思いますし、中北部地域のゲートウェイの役割を1つつくられたのではないかなというふうに思います。これをきっかけとして地域の魅力ある、均衡ある発展へとつなげていき、私自身もしっかりこういったことを議員活動に生かしていきたいなというふうに思った次第でございます。

1年間、本当にありがとうございました。

## ○津田裕也副委員長

まずもって田島委員長、大河内副委員長はじめ委員の皆様、また理事者並びに事務局の皆様には、この1年間大変お世話になり、ありがとうございました。

本特別委員会では、魅力ある地域づくりをテーマに公共交通を生かしたまちづくり、商店街を中心とした地域活性化、スポーツ施設を活用したにぎわいづくりなどについて、幅広く調査・研究を行ってまいりました。参考人からは、それぞれの現場での取組や課題について貴重なお話を伺い、多くの学びを得ることができました。特に人口減少や高齢化が進む中で、地域の特色や資源を生かしながら、人が集い、住み続けたいと思える地域をつくっていくことの重要性を改めて感じたところであります。

また、管外調査では、ジオパークを活用した地域づくりやものづくり産業を生かした観光振興、eスポーツを活用した地域活性化など、先進的な取組について学ぶことができ、大変有意義でありました。

委員会活動を通じて魅力ある地域づくりには、そこで働く人たちが魅力的で生き生きすることが大事であり、郷土に対する愛情などを深めることにより、現状に対する改善などにチャレンジする気持ちになることが、より魅力ある地域をつくり上げるのではないかと考えております。

最後に、本委員会で学ばせていただいたことを今後の議員活動に生かし、京都府政の発展に貢献できるように努力することをお誓い申し上げまして、1年間のまとめとさせていただきます。1年間、誠にありがとうございました。

## ○秋田公司委員

はじめに、田島委員長、津田副委員長、大河内副委員長、そして委員の皆様方には、1年間、大変お世話になり誠にありがとうございました。また、委員会活動をお支え頂きました理事者の皆様、議会事務局の皆様にも改めて感謝を申し上げます。

私は2年前にも本特別委員会に所属をさせていただいており、その際にも感じたことではありますが、今回、委員会調査を重ねる中で改めて感じましたことは、「魅力ある地域づくり」と言葉にすることは簡単であるにも関わらず、それを実現することが如何に難しいか、ということでもあります。

人口減少を食い止めるために「魅力ある地域づくり」を目指すのか、出生率向上のために目指すのか、地元経済の振興のため目指すのか、目的だけをとっても様々ですし、「魅力ある地域づくり」を目指すための手段も多岐にわたります。

住民の皆様にとっても、「魅力ある地域づくり」という大きな方向性については同意できたとしても、実際に誰が、何を、どのようにして進めていくのか、という個別具体の話になってくると、なかなかイメージやアイデアも湧きにくいと思いますので、これを実行に移す主体をどのように確保するのかということが、まず初めに越えなければならない大きな課題なのではないかと感じております。

その点、参考人の方々から伺った事例では、「公共交通や駅」、「商店街」、「スポーツ施設」など、代表的な地域資源の関係者が中心となった地域づくりが進められており、地域づくりに携わる主体が周囲を巻き込んでいく熱量と行動力が大変重要であることが確認できたことは、大変参考になりました。

魅力ある地域づくりに関する特別委員会に所属し、一朝一夕には成し遂げることであり

ない「魅力ある地域づくり」について、委員の皆様とともに調査を重ねる中で新たな知見を増やすことができました。本当に1年間ありがとうございました。

#### ○田島祥充委員長

それでは、閉会に当たり私からも一言御挨拶を申し上げます。

昨年5月から本日に至るまでの間、津田・大河内両副委員長はじめ委員の皆様方には、委員会の円滑な運営に格段の御協力をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。また、理事者の皆様方におかれましても、この間、各般行政に大変な御尽力をいただき、誠にありがとうございました。おかげをもちまして、大過なく委員長の責務を果たせましたことを、この場をお借りして委員並びに理事者、そして事務局の皆様には厚く御礼を申し上げます。

さて、本委員会は、地域のポテンシャルの向上を目指した魅力ある地域づくりに関する施策について調査・研究を重ねてまいりました。1年間の活動を振り返ってみますと、委員会調査においては委員の皆様からの御意見を下に、公共交通、商店街、スタジアムをテーマとし、人口減少、高齢化が進む社会における地域のにぎわい創出や持続可能な地域づくりに関する取組について、それぞれ参考人を招致し意見交換を行っていただきました。

管外調査では、新潟県糸魚川市においてジオパークを活用した地域づくりについて、富山県高岡市の株式会社能作では、ものづくり産業を活用した地域の魅力づくりについて、また富山県におけるeスポーツを活用した地域づくりの取組など、他県の先行事例や取組について調査・研究を行ってまいりました。

京都府内においても、各地に多くの魅力があるものの、それらを生かした地域づくりには、まだまだ様々な課題が山積しております。社会情勢が大きく変動する中で、魅力ある地域づくりという幅広い分野において、理事者の皆様におかれましては、本委員会での活動における参考人の御助言をはじめ、各委員から出された御意見、御要望について、今後の府政運営に向け積極的に御検討いただきますようお願いを申し上げます。

最後になりましたが、委員並びに理事者、そして事務局の皆様におかれましては御健康に留意され、今後ますます御活躍されることを祈念いたしまして、簡単ではありますが、私のまとめの御挨拶とさせていただきます。1年間、大変お世話になり、ありがとうございました。

## 魅力ある地域づくりに関する特別委員会 管内外調査実施状況

### 1 管内調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 9. 9	▷ 2023体育館フェスタ開始式
	9. 30	▷ 京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業 2023「京都キッズスポーツフェスタ」開会式
	10. 29	▷ 第46回京都府民総合体育大会オープニングフェスティバルオープニングセレモニー（総合開会式）
6	6. 9. 7	▷ 2024体育館フェスタ開始式
	9. 28	▷ 京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業 2024「京都キッズスポーツフェスタ」開会式
	10. 27	▷ 第47回京都府民総合体育大会オープニングフェスティバルオープニングセレモニー（総合開会式）
	7. 3. 15	▷ 令和6年度大学・学生とともにのぼす京都プロジェクト 成果報告会
7	7. 9. 13	▷ 2025体育館フェスタ開始式
	9. 27	▷ 京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業 2025「京都キッズスポーツフェスタ」開会式
	10. 26	▷ 第48回京都府民総合体育大会オープニングフェスティバルオープニングセレモニー（総合開会式）

### 2 管外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 8. 22 ～23	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンター（CRD） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域デザインセンターを中心とした地域連携の推進について</li> </ul> </li> <li>▷ 栃木県総合運動公園 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とちぎ国体のレガシー継承を通じた地域活性化について</li> <li>・ 施設視察（日環アリーナ栃木、カンセキスタジアムとちぎ）</li> </ul> </li> <li>▷ 一般社団法人奥むさし飯能観光協会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林の間伐対策問題とサステナブルツーリズムの推進について</li> <li>・ 現地視察（喜多川キャンピングベース）</li> </ul> </li> </ul>

6	<p>6. 8.27 ～28 (中止)</p> <p>7. 1.29 ～30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 美濃市議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的資源の活用と古民家再生でつなぐ持続可能なまちづくりについて</li> </ul> </li> <li>▷ みのまちや株式会社・みのシェアリング株式〔於：まちごとシェアオフィス〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的資源の活用と古民家再生でつなぐ持続可能なまちづくりについて</li> <li>・ 施設視察</li> <li>・ 現地視察（NIPPONIA 美濃商家町）</li> </ul> </li> <li>▷ 岐阜市役所〔於：みんなの森 ぎふメディアコスモス〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「シビックプライド」を醸成するための取組について</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 春日井市議会〔於：高蔵寺まなびと交流センターグループふじとう〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「高蔵寺リ・ニュータウン」の取組について</li> </ul> </li> </ul> <p>※台風 10 号の接近により中止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 中津川市議会〔於：付知地域デザインミュージアム〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中津川市の持続的に発展するまちづくりを目指した取組について</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 中津川市議会〔於：中津川市ひと・まちテラス〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中津川市の持続的に発展するまちづくりを目指した取組について</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 岐阜市議会〔於：みんなの森 ぎふメディアコスモス〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「シビックプライド」を醸成するための取組について</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 滋賀県庁〔於：平和堂HATOスタジアム〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」を契機とした地域活性の取組について</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> </ul>
7	7. 8.26 ～27	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 糸魚川市議会〔於：フォッサマグナミュージアム〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジオパークを活用した地域づくりについて</li> <li>・ 施設視察</li> <li>・ 現地視察（フォッサマグナパーク）</li> </ul> </li> <li>▷ 株式会社能作 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ものづくり産業を活用した地域の魅力づくりについて</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 富山県議会、株式会社ZORGE〔於：富山県議会〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ e スポーツを活用した地域づくりについて</li> </ul> </li> </ul>